

★言葉の力が身につく3ステップ

主体的・対話的で深い学びを実現する、新しい構成を採用。各単元に設けた、**つかむ** **取り組む** **振り返る**の3ステップで、★言葉の力を確実に身につけます。

1 単元の始めから終わりまで、★言葉の力を意識して学べる仕組み

ごんぎつね (四下P30) の例

つかむ

読んで考えたことを伝え合おう

★言葉の力 ★人物どうしの関わりを考える

■覚えていくかな
★中心人物の変化を捉えらえる ↓ 155ページ

これまで読んだ物語には、中心人物のほか、どのような人物が出てきましたか。それらの人物は、中心人物とどのような関係だったでしょうか。

●人物どうしの関わりを調べて、「ごんぎつね」を読もう。

「ごんぎつね」には、どのような人物が出てくるでしょうか。中心人物とその他の人物との関わりを調べて、「ごんぎつね」を読みましょう。

「あれと」「ついで」は、中心人物の登場してくる物語のつなげ。

「ごんぎつね」って、うん、人物のことを表しているかな。

村の外れの山の中に、ひとりぼっちの小さきつねがすんでいました。

ごんぎつね

30

単元の導入ページ

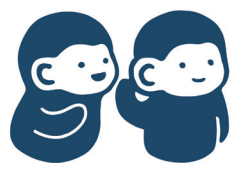
「伸びたい気持ち」を引き出す

主体的な学びへといざなう、単元の導入ページを新設。

これまでの学習を振り返り、単元で身につける★言葉の力を見通して、学習に取り組むことができます。

単元の導入ページ冒頭にある■覚えていくかなでは、単元の学習に関連の深い既習の★言葉の力を提示。学びのつながりを意識しながら学習に取り組むことができます。

教材の扉
教材文に関わる挿絵や写真、リード文で、教材文を読む意欲を高めます。



ごんぎつね

村の外れの山の中に、ひとりぼっちの小さきつねがすんでいました。

49

単元の「問い」

★言葉の力がしっかり身につく

てびきの冒頭には、単元の「問い」を新設。言語活動を通して「問い」を解決していくことで学びが深まり、確かな★言葉の力が身につきます。



取り組む

●ごんと兵十の気持ちを考えよう。

▼ごんは、どこにすみ、いつものようなことをしていましたか。

・「」を読み、この物語の「時」「場所」「人物」をたしかめましょう。

▼この物語では、どのような出来事が起こりましたか。

・ごんと兵十の言葉や行動をノートに書き、起こった出来事を整理しましょう。

・ごんと兵十の、たがいに對する気持ちを想像して、ノートに書きましょう。

最後の場面では、目をつぶったままうずいたごんは、どのような気持ちだったんだろう。それを見ていた兵十は、どのような気持ちだったんだろう。

ごん
兵十

ごんが、びくいたずらしたとき
「兵十だぞ」
「ちよいど、いたずらがしたくたつたのです。」
「うわあ、ぬすまじつねめい」
と、どなりたてました。
「うわあ、ぬすまじつねめい」
と、どなりたてました。
「うわあ、ぬすまじつねめい」
と、どなりたてました。

49

言語活動

「学び続ける心」を育てる

●単元の学習を通して、できるようになったことや頑張ったことを振り返ることができるよう、**振り返りの観点**と★言葉の力を提示。成長の実感を味わい、次の学びへの意欲を高めます。



振り返る

●振り返る

友達と感想や考えを伝え合い、どのようなことを感じたり考えたりしましたか。

★言葉の力

●人物どうしの関わりを考える

中心人物の気持ちの変化は、ほかの人物の行動や気持ちと大きく関わっていることがあります。中心人物とほかの人物との関わりを考えたうえで、物語に対する感想や考えがより深まります。中心人物とほかの人物との関係を考えるときには、次のことに気を付けて考えましょう。

・中心人物とほかの人物との間にどのような出来事が起こるか。

・中心人物の気持ちの変化するきっかけとなる出来事に、ほかの人物がどのように関わっているのか。

文を書く
「ばかり」32ページ行目
「行」の使い方
竹林 松竹梅 竹馬

「ごんぎつね」の作者が書いた、ほかの物語を読んでみましょう。
おもしろい村へようこそ
ごんぎつね
ごんぎつね
ごんぎつね

52

振り返りの観点

こんな本もいっしょに

学習と関連して読み広げたり調べたりすることに役立つ図書を紹介しています。

2 ★言葉の力を支えるさまざまな工夫

学校についてしようかいすることを考えよう(四上P114)の例

学校についてしようかいすることを考えよう

★言葉の力

「学校についてしようかいする」というテーマで、児童が話し合っている様子。司会役の児童が「どうして体育館がよいと思ったのですか。」と質問し、他の児童が「広い体育館にびっくりすると思っただけです。ぼくも、初めて体育館を見たとき、広い、ゆかもきれいでおどろきました。本がたくさんあるから、図書館のほうがおどろくと思います。本が好きなのは、図書館のほうがわくわくするはず。」と答えている。司会役は「ぼくは最近、うちゅうの本を読んでいるけど、すこわくわくします。わたしは遠足の様子をしようかいしたいと思えます。みんなて本の実をひいて、とても楽しかったことを教えてあげたいと思います。やっぱり、体育館やプールのほうが、楽しそうにいいと思います。保健室の先生が、どうもやさしいことをしようかいしてはどうでしょう。か。転んでびびるすりむいたとき、やさしく手当てしてくれました。ほかにありませんか。」と質問している。

114

言語活動

来年入学する子たちに、学校についてしようかいするための話し合いをしましょう。

1 学習の見通し
2 グループで話し合う。

★役わりを考えながら話し合う

「言葉の力」の「問い」

★役わりを考えながら話し合う

●質問する人や、質問に答える人は、どんなことに気をつけて、質問したり答えたりするとよいだろう。

★言葉の力

「学校についてしようかいする」というテーマで、児童が話し合っている様子。司会役の児童が「どうして体育館がよいと思ったのですか。」と質問し、他の児童が「広い体育館にびっくりすると思っただけです。ぼくも、初めて体育館を見たとき、広い、ゆかもきれいでおどろきました。本がたくさんあるから、図書館のほうがおどろくと思います。本が好きなのは、図書館のほうがわくわくするはず。」と答えている。司会役は「ぼくは最近、うちゅうの本を読んでいるけど、すこわくわくします。わたしは遠足の様子をしようかいしたいと思えます。みんなて本の実をひいて、とても楽しかったことを教えてあげたいと思います。やっぱり、体育館やプールのほうが、楽しそうにいいと思います。保健室の先生が、どうもやさしいことをしようかいしてはどうでしょう。か。転んでびびるすりむいたとき、やさしく手当てしてくれました。ほかにありませんか。」と質問している。

115

★言葉の力

「学校についてしようかいする」というテーマで、児童が話し合っている様子。司会役の児童が「どうして体育館がよいと思ったのですか。」と質問し、他の児童が「広い体育館にびっくりすると思っただけです。ぼくも、初めて体育館を見たとき、広い、ゆかもきれいでおどろきました。本がたくさんあるから、図書館のほうがおどろくと思います。本が好きなのは、図書館のほうがわくわくするはず。」と答えている。司会役は「ぼくは最近、うちゅうの本を読んでいるけど、すこわくわくします。わたしは遠足の様子をしようかいしたいと思えます。みんなて本の実をひいて、とても楽しかったことを教えてあげたいと思います。やっぱり、体育館やプールのほうが、楽しそうにいいと思います。保健室の先生が、どうもやさしいことをしようかいしてはどうでしょう。か。転んでびびるすりむいたとき、やさしく手当てしてくれました。ほかにありませんか。」と質問している。

116

つかむ

「伸びたい気持ち」を引き出す

●学習のモデルとなるような文例や話例に加えて、うまく進んでいない話し合いの例など、**児童の問題意識を引き出すような例も示す**ことで、**★言葉の力を使って「頑張りたい」「できるようにになりたい」という思いを引き出します。**



取り組む

★言葉の力がしっかり身につく

●主体的に学習を進めることができるように、単元の「問い」を解決するための言語活動とともに、**■学習の見通しを示しました。**

●学習過程の中で特に重点となる部分には、**★言葉の力の「問い」を新設。言葉による見方・考え方を働かせて思考・判断・表現することを促し、学びの深まりを生み出します。**

●学習活動の各所で、児童が考えを伝え合う場面を丁寧に描写。**それぞれの考えを広げ深める、対話的な学びの大切さを伝えていきます。**



●単元の中で特に押さえておきたい知識・技能を取り上げる **✓おさえる** を新設。思考・判断・表現する中で **生きて働く知識・技能が身につきます。**

✓おさめる
くらべてまとめる
ことなるものどうしの、同じところやちがうところを説明するときには、それぞれをくらべて伝えることが大切です。どんな観点からくらべるのかを決め、それぞれの同じところやちがうところがはっきりと伝わるようにまとめましょう。

ふり返る

「学び続ける心」を育てる

●最後に設けた **■生かそう** では、**★言葉の力を他教科等の学習や、日常生活に生かす** 観点を示し、単元の学習で身につけた **★言葉の力** の活用を促します。

★言葉の力の系統性

六年間を通じて確かな★言葉の力を身につけられるように、**学習の系統性を重視**。全ての領域において、**各単元で身につけたい力と言語活動を明確に構成**しています。

主な領域の学習の系統（三年の例）

話すこと・聞くこと

書くこと

読むこと（文学）

読むこと（説明文）

対話

対話をするときの言葉や態度について考え、対話的な学びの基礎・基本の力を身につける。

- 何をしているのかな（上P10）
- 話をつなぐ言葉を考える

聞く

必要なことを聞き取り、考えたり質問したりして、主体的に聞く力を身につける。

- メモを取りながら話を聞こう（上P50）
- ★**だいたいなことを落とさず聞く**

話し合う

目的を意識して計画的に話し合う力を身につける。

- グループの合い言葉をきめよう（上P16）
- ★**司会の進行にそって話し合う**

話す（感性）

感じたことが伝わるように、構成や音声表現の工夫を考えて話す力を身につける。

- 話したいな、わたしのすきな時間（下P26）
- ★**話の中心がたつたわるように話す**

話す（情報活用）

調べたことや考えたことが伝わるように、構成や音声表現、資料活用の工夫を考えて話す力を身につける。

- 外国のことをしようかいしよう（下P102）
- ★**話の組み立てや話し方をくふうする**

情報の扱い方

コンパクトな「書くこと」の活動を通じて、「情報の扱い方」の基礎・基本の力を身につける。

- くらべてみよう（上P12）
- 表を用いて複数の事柄を比べる

説明・報告

調べたり考えたりしたことを、形式や構成、資料の使い方を工夫して書く力を身につける。

- 調べて書こう、わたしのレポート（上P56）
- ★**調べて分かったことをつたえる**

創作（物語）

物語の創作を通じて、豊かに想像を広げて書く力を身につける。

- 想どうを広げて物語を書こう（上P148）
- ★**設定を考えて物語を書く**

手紙

手紙を書くことを通じて、目的や相手に応じて書く力を身につける。

- 案内の手紙を書こう（下P30）
- ★**だいたいなことを手紙でつたえる**

意見

自分の意見や考えを、説得力を持って書く力を身につける。

- 自分の考えをつたえよう（下P60）
- ★**自分の考えとその理由を書く**

創作（詩・短歌・俳句）

詩・短歌・俳句の創作を通じて、言葉を吟味して書く力を身につける。

- 心が動いたことを詩で表そう（下P78）
- ★**心の動きを詩で表す**

文集

一年間で書いた文章を読み返し、推敲する力や文章のよさを伝え合う力を身につける。

- 「わたしのベストブック」を作ろう（下P128）
- ★**文章のよいところをつたえ合う**

音読

物語から読み取ったり考えたりしたことを、音読で表す力を身につける。

- すいせんのラッパ（上P16）
- ★**様子を思い浮かべて音読をする**

読み取る

物語の構成や内容を読み取る力を身につける。

- はりねずみと金貨（上P64）
- ★**あらすじをまとめる**

読み深める

読み取ったことをもとに、想像を広げて解釈するために必要な力を身につける。

- サーカスのライオン（上P126）
- ★**中心人物を見つける**

感想や考えを持つ

物語を読んで理解したり想像したりしたことをもとに、感想や考えを持つ力を身につける。

- モチモチの木（下P40）
- ★**人物のせいかくを想どうする**

読み広げ・読み比べ

物語を読み広げたり、二つの物語を読み比べたりすることで、★**言葉の力を広げ、深める**。

- ゆうすげ村の小さな旅館
——ウサギのダイコン（下P110）
- ★**物や道具に気をつけて読む**

読解の基礎

文章の内容や構成を正確に理解する力を身につける。

- 自然のかくし絵（上P38）
- ★**だん落の内ようをとらえる**

読み比べ・表現の工夫

書き手の意図や目的に応じた表現の工夫を読み取る力を身につける。

- 「ほげんだより」を
読みくらべよう（上P90）
- ★**書き手のくふうを読み取る**

情報活用

目的や課題に応じて、情報を関係付けて活用する力を身につける。

- パラリンピックが目指すもの（下P8）
- ★**要約してまとめる**

考えを広げ、深める

文章との対話を通して、ものの見方や考えを広げ、深める。

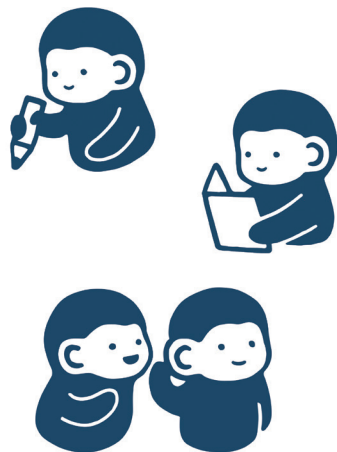
- 人をつつむ形
——世界の家めぐり（下P88）
- ★**もの見方や考え方をとらえる**



4月の学びを大切に

4月には、一年間を通じて活用したい基礎・基本的な事項について学習する単元を配列。対話や情報の扱い方、図書館活用など、国語以外の教科にも生きる学習を行います。

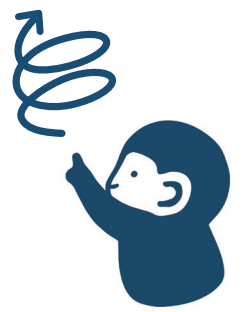
- 三年の例
- 何をしているのかな（上P10）
「話すこと・聞くこと」対話系統
 - くらべてみよう（上P12）
「書くこと」情報の扱い方系統
 - 一年間の学習に生かそう（上P14）
年間を通じた活用を促すコラム
 - すいせんのラッパ（上P16）
「読むこと（文学）」音読系統
 - 国語のノートの作り方（上P28）
ノートの作り方コラム
 - 図書館へ行こう（上P30）
図書館活用



★言葉の力が積み上がる

★言葉の力は一年間、そして次の学年へとつながり、積み重なっていきます。
このような螺旋的・反復的な学習を通じて、児童の言葉による見方・考え方を豊かにします。

説明文(中学年)の例



低学年での学習から

三年

★だん落の内ようをとらえる

文章の中にいくつかある、小さな内ようのまとまりを、だん落といいます。だじだと思いう言葉や文に気をつけて読み、一つ一つのだん落に何が書かれているかをとらえることで、文章全体の内ようをとらえやすくなります。
自然のかくし絵(三上P38)

読解の基礎

四年

★文章のまとまりをとらえる

文章を読むときは、全体がいくつかのまとまりからできているかを考えることが大切です。まとまりは、一つ、またはいくつかのだん落が集まってできています。それぞれのだん落の内容をとらえ、だん落どうしがどのように結び付いているのかを考えることで、まとまりの内容をとらえることができます。
ヤドカリとイソギンチャク(四上P36)

★表し方のちがいを読み取る

表し方のちがいを読み取る際には、次のような点に注意しましょう。
・どのようなことが取り上げられているか。
・写真や図などが、どのように使われているか。
・書かれていることがらが、どのような順でならべられていて、どんなことが強調されているか。
広告を読みくらべよう(四上P84)

読み比べ・表現の工夫

★調べたことを関係付ける

調べたことは、その目的に合わせてまとめる必要があります。調べたことの中から必要なものをえらび、それらをくらべたり、順序立てたりして、関係付けてまとめましょう。文章を読むときにも、書かれていることどうしの関係に注目し、自分でまとめるときに生かしましょう。
くらしの中の和と洋(四下P8)

情報活用

★要約してまとめる

文章の内ようをみじかくまとめることを要約といえます。要約するためには、文章の中の大切な言葉や文を見つけてまとめることが大切です。そのうえで、分かりやすく書きかえたり、言葉をおぎなったりして、まとめていきましょう。
パラリンピックが目指すもの(三下P8)

考えを広げ、深める

★ものの見方や考え方をとらえる

説明文を読むときは、考えと、理由や事例との関係に気をつけることが大切です。理由や事例との関係に気をつけて、筆者のものの見方や考え方をとらえるようにしましょう。
人をつつむ形——世界の家めぐり(三下P88)

★筆者の考えから自分の考えを広げる

筆者が何かの考えをのべているときは、そう考える理由や事例、事実に注目することが大切です。そのうえで、自分が知っていることや体験したことと結び付けたり、なっとくできる点やぎもんに思う点を挙げて、筆者の考えに対する自分の考えを広げていきましょう。
数え方を生みだそう(四下P84)

高学年での学習へ



★言葉の力がつなると、
国語がもっと楽しくなるよ!

